明日へ向かって

第３学年　　学年だより
令和５年　１２月１５日
第５４号

面接での質疑応答例～面接練習を終えて～

あくまでも「例」です。自分の考えたこととまるっきり違う受け答えをする必要はない。ということをベースに、「参考例」として捉えてください。

ケースＡ
Ｑ）本校を志望した理由をお聞かせください。
Ａ）はい。大学進学の実績を入試相談会で伺って、私の希望と一致するところがありました。それで○○高校に進学したいと思うようになりました。

ようするに、「意味もなく志望した」「先生が勧めてくれたので」というような理由は、自分をアピールするには消極的と言えます。仮に併願校であっても、その高校を希望した理由はあるはずですから、積極的にその学校に進みたいという理由を述べましょう。

志望の理由としては、「学校の校風」「施設」「進学率」「交通の便」「教育方針」などとリンクできると説得力が増します。志望校の入学案内、入試要項などで事前に検討しておくと答えやすいと思います。

ケースＢ
Ｑ）自分の長所と短所を述べてください。
Ａ）はい。長所は、思ったことは実行する積極性です。短所は、おっちょこちょいなところだと思います。

どちらに偏ることなく、できるだけ明確に答えることが大切です。短所についても言い訳がましいことは言わず、ありのままに答えることがよいでしょう。短所を言ったからといって不利になるようなことはありません。

ケースＣ
Ｑ）いじめについてどう思いますか。
Ａ）私は、絶対に許されない行為だと思います。いろいろな意見があると思いますが、少なくとも私はそういうことはしたくありません。

この他にも「タバコを吸いたいと思ったことはあるか」「化粧をしたことはあるか」など、学校生活の乱れに関することは、質問しやすい内容です。なぜなら、高校は生徒を選抜して入学させる以上、問題傾向のある生徒は厳に見極めたいからです。あいまいな態度では、意思が弱く誘われたら断れないのではないかと思われます。また基本的にそういう行為をする人のことを意見するよりは、自分はそういうことはしないのだ、と意思表示したほうが好印象を与えます。

ケースＤ
Ｑ）最近のニュースで印象に残っていることはありますか？
Ａ）私は、２０２０年のオリンピック開催都市に東京が選ばれたことが印象に残っています。
Ｑ）それはなぜですか？
Ａ）はい、２０２０年といえば私が大学を卒業する時で、社会人として世界的な祭典に何らかの形で協力できるかもしれないと思ったからです。

時事問題は、２～３の答えは用意しておきましょう。

答え方のコツとしては、まず「簡潔に」「ズバッと核心を答える」こと。次に、明確な理由を答えることができるというのが求められます。

これは準備できる質問ですので、ある程度答弁の内容を推敲しておいても良いでしょう。いくつか気になったニュースがあるなら、否定的な意見を述べざるをえないことよりも、将来的、発展的な材料を選んで答えると良いですね。

ケースＥ
Ｑ）本校に入学したらどういうことをしたいですか？
Ａ）学習に力を入れたいです。特に英語を頑張りたいです。
Ｑ）それはなぜですか？
Ａ）はい、私は大学進学を希望しており、将来は得意な英語を活かして、世界の人々と関わりあう仕事に就きたいと思っているからです。

なるべくハキハキと、積極性を持って答えるのが良いでしょう。その志望校が力を入れていることとリンクできればさらに良いですが、無理する必要はなく、自分の気持ちを素直に答えましょう。

また、「ほかには何かありますか？」には備えておいたほうがよいでしょう。

ケースＦ
Ｑ）試験の出来具合はいかがでしたか？
Ａ）はい、国語と英語はできましたが、数学は私にとっては難しかったです。半分ぐらいしかできなかったと思います。

「なにがいちばん難しかったですか？」という質問はわりとあります。筆記試験が終わったあとは、その教科の出来具合は押さえておきましょう。どの教科のどこが難しかったと答えることで、勉強への執着や熱心さを伝えることができます。

ケースＧ
Ｑ）本校までの利用交通機関と所要時間を教えてください。
Ａ）はい、自宅からバスに乗って田無駅まで行き、西武線で玉川上水駅で下車します。そこから徒歩です。所要時間は約５０分です。

準備できる答弁の一つです。「この人は、面接のためにきちんと準備をしてきたのだな」という印象を与えることができます。仮に二つ以上の経路があっても、一つ答えれば良いです。気をつけたいのは、公共交通機関を利用しての経路を答えること。受験の時は自転車では行きません。

ケースＨ
Ｑ）友達は何人ぐらいいますか。
Ａ）はい、特に仲の良い友達は３人ぐらいです。
Ｑ）ほかにはどうですか。
Ａ）部活の仲間が多いですが、クラスメートでもよく話す友達は２～３人います。

答えを創作する必要はありませんが、「一人もいない」ということでは協調性がないのではないか、コミュニケーション能力に問題があるのではないか、と思われても仕方がありません。

また、友人の実名を挙げて指折り数えることのないよう、あらかじめ答えを整理しておきましょう。

ケースＩ
Ｑ）あなたはこの１年間、欠席、遅刻、早退などはありましたか。
Ａ）はい、１学期に風邪をひいて２日ほど欠席しました。また夏休み前に、体育の時間捻挫をして、早退したことが１回あります。

欠席などの日数は、あらかじめ調査書で高校側に提出されており、面接官はそれを見ながら質問していることが多いので、あらかじめ欠席などの回数や理由を確認しておいたほうが良いでしょう。これは、あらかじめ分かっていることをわざわざ質問する例ですから、事実と食い違わないようにすることが大切です。

ケースＪ
Ｑ）中学校生活と高校生活で違うことはなんだと思いますか。
Ａ）中学校生活は義務教育なので、自分の考えも生かしていくのですが、学習や生活の基本を教わっていくということが重要だと思います。それに対して高校生活では、自分はどうしていきたいかという意思をしっかり持つことが大切だと思います。自分自身にかかってくる責任が重くなる分、やりがいもあると思います。

この手の質問に対する答弁のコツは３点あります。

１つ目は、質問に正しく向き合った答えをすること。「正対する」といいます。この場合は中学生活と高校生活の「比較」ですから、「比較したこと」を答えるのです。

２つ目は、自分の考えをまとめて端的にしゃべることです。だらだらと、何が言いたいのか分からない長いしゃべりになってしまうと、自分自身でもどうまとめてよいのか分からなくなり、最初と最後が結びつかない支離滅裂な答弁になります。短くまとめることは、自分自身への保険でもあります。

さらに３つ目に気を配る余裕があるなら、比較検討の場合は、どちらかを悪く言うようなことはできるだけ避けることです。

面接の形態は、いろいろあります。

「個人面接」の場合でも、「面接官と１対１」の学校もあれば「受験者１人に面接官が複数」の学校もあります。「グループ面接」の場合も、面接官と受験者の数は学校によってまちまちです。

個人面接の場合は、自分ひとりに対する面接ですから、質問された内容をじっくり考えて答えることができます。質問されたらすぐに答えなくてはならないわけではありません。考える時間があって当然なのですから、頭の中で一度答えを作ってみてから答えると良いでしょう。

グループ面接の場合も、基本的には個人面接と同じですが、同じ質問について受験者全員がひとりひとり答えていくという形が一般的です。その場合、自分の答えの内容も考えなくてはいけませんが、ほかの受験生が答えた内容にもしっかり耳を傾けておかなければなりません。自分が用意していたことと同じことを先にしゃべられてしまうかもしれませんが、そんな時も焦らずに、「自分も〇〇というように考えています。」としっかり答えてください。

グループ面接であっても、ほかの人との比較をしているわけではありません。個人面接と同じように、あなたの考えをしっかり答えられればよいのです。

面接時間の長短も、あまり関係がありません。面接時間が長ければ、いろいろなことに対してじっくりと答弁できる時間があるだけ、受験者には有利です。あらかじめ、面接時間が長いと分かっているなら、しっかりと答弁を準備しておきましょう。

推薦入試まで早い人だとあと約１ヶ月弱

都立一般入試までは、８０日を切りました。みなさんの様子を見ていると、大半の人が精神的にキツイ状況でも、明るく笑顔で頑張ってくれていて、先生方もみなさんの元気をもらって入試準備に励んでいます。話を聞いてみるとこの冬休みには、塾の冬期講習などでかなりハード・スケジュールの人もいるようです。そして、不安を訴える人もいます。確かに、今の時期、入試に対して不安にならない人などいないと思います。

「本当に自分は合格できるのだろうか？」
「不合格だったら、どうしよう・・・・・」
「自分が選択した進路（高校）は果たして良かったのだろうか？」

毎年、この時期になると３年生は同じ思いで過ごしています。じっとその不安と自分の心の中で戦った人、夜眠れなくなってしまった人、不安に耐えきれず普段の自分らしさを見失ってしまった人。いろいろな人がいましたが、先輩たちもみんな同じように不安だったのです。

そんなときに、自分を救ってくれたものは何か？

友人と話すことで勇気づけられた人、先生に相談をして安心した人、とにかくやるだけだと踏ん切りをつけてものすごく真剣に勉強した人。取り組み方は、みんなそれぞれですが、自分に自信をつけて「不安な自分」を乗り越えてきたのです。不安に思う気持ちは、十分にわかります。でも、それを乗り越えなくては、次のステップには進めません。余計な情報に不安がったり、頭の中で「心配」の堂々めぐりをしていても何の解決にもならないのです。自分の考えや思いが決まったら後はどっしりと構えて集中してやるべきことをやる。自信が持てる自分をつくるのは、自分自身でしかない。そう割り切って、目標にむかって進むことも大切です。

がんばれ！３年生！！

今後の予定

１８日（月）	①学活　インターネット出願について
２０日（水）	職員会議　検定学習会（英語）
２２日（金）	⑥大掃除　給食終